



# 星のっ子だより

(文責 吉田)

保護者のみなさま、老人クラブのみなさま、暑い中、また早朝より本日の資源回収、愛校作業ありがとうございました。

8月25日(金)から学校が始まりますが、皆さん方のおかげで、学校がより一層きれいになりました。子どもたちもきれいになった学校で勉強に運動に励むことだと思います。25日からの学校開始が楽しみです。

## 7月20日～21日 5年生 自然体験学習

5年生24名、それに引率教員4名の計28名で、7月20日から21日の一泊二日で、福岡県立少年自然の家「玄海の家」にて自然体験学習を行いました。私も一緒に行きましたが、子どもたちは、協力し合いながら各活動に意欲的に取り組みました。その様子を見て、この子どもたちだったら来年度も立派に星野小学校をリードしてくれると確信しました。

そんな中で特に興味深く感じたのが野外炊飯のカレー作りです。グループで分担しながら、飯ごう炊飯を行い、カレーを作りますが、子どもたちはこういう体験は少ないのではないのでしょうか。

現代社会は、生活が大変便利になり、普段の生活は電気やガスを利用しています。山間部である星野の子どもたちも例外ではなく、部マッチを使ったり、薪割りをしたり、薪を使ってご飯を炊いたり、料理を作ったりすることはほとんどありません。

しかし、この便利な生活は、自然災害等に対しては非常にもろいものです。平成24年7月の九州北部豪雨では、みなさん方が体験されたように電気、電話、水道は使えず大変不自由な生活を余儀なくされました。地球環境が変わる中、また、いつこういう災害が発生するとも限りません。こういう非常時に役立つことが、野外炊飯などの体験活動や日頃の家での手伝いなど身につけた生きる術ではないかと思えます。

子どもたちを見ていると、普段こういう活動を体験している子どもたちは手際がいいです。この自然体験学習を通して、こういった学習の必要性を感じると共に星野の子どもたちがこれからも訪れるであろう自然災害等に負けずにたくましく生き抜いて欲しいと思った次第です。



### お知らせ

数年来、中学校と合同の運動会について話し合いを続けてきましたが、来年度(平成30年度)は、星野中学校の全校生徒数が50名を下回るということで、来年度より小中の合同運動会を実施するようになりました。期日は平成30年5月26日(土)場所は、星野小学校運動場です。ご了承願います。

## 8月6日 八女市平和祈念式典

今年も、広島に原爆が投下された8月6日にそよかぜにて八女市平和祈念式典が行われました。本校からは6年生が参列し、上野真愛さんが「平和の誓い」を堂々と発表しました。改めて、現在の平和がいつまでも続いて欲しいと願いました。

平和の塔で燃え続ける「平和の火」は、星野村で生まれ育った山本達夫氏が持ち帰られたものですが、子どもたちには今後このことをしつかりと学習させたいと思います。このことも、星野の誇りにつながると考えています。

### 私の考える平和

私は、「平和とは何か」と考えたとき、それは、朝になれば起きて、食事をとり、学校へ行き、勉強し、友だちと遊び、家族と一緒に暮らすことだと思えます。そんな当たり前のようですが、昔は違っていたことを、戦時中の暮らしの様子について学習するにつれて分かってきました。ものすごい爆風と熱線で建物が崩れ去り、

「誰か、誰か水を下さい」と裸足で駆け回っている人や、  
「熱い、熱い」とぼろ切れのようになった皮膚をたらし、歩く人がたくさんいたそうです。私とその場にいたら、全員が元気にしてあげたいと心から思いました。しかし、その悲惨な状況を誰にもどうすることもできなかったのではありません。

私は、戦争は罪のない人々を何万人と殺す恐ろしいものだと思いました。だから戦争というものは二度と起こしてはならないと強く感じました。

戦争が終わり、日本は平和になりましたが、外国では、私たちの知らないところでいまだにたくさん争いが起こっています。このような争いをなくして、平和な生活を続けていくためには、全ての人々が武器を捨て、話し合いで物事を解決していくのが一番だと思います。

しかし、外国では核実験やミサイルの発射が行われるなど、数多くのニュースが報道されています。戦争を起こすもととなるようなことはやめて欲しいと強く願っています。

私の住んでいる星野村には、そこに見えている平和の塔があります。平和の塔にともされている火は、山本達夫さんが、原爆で焼け野原になってしまった広島から、大切に持ち帰られたものです。この火は七十二年前から今日まで燃え続け、世界に二度と戦争をしてはいけないということをうたえ続けているのであり、平和の象徴なのです。広島の人々は原子爆弾がおとされた後、とても苦しい生活をしていたと思います。いまだに、原子爆弾の放射線の後遺症で苦しんでいる人もいます。大切な人を失った苦しみは私たちの想像を超えるものでしょう。私は戦争を体験したことはありませんが、平和の火が燃え続けるこの星野村に生まれてきたからこそ、なお一層、平和について考えなければならぬと思えます。山本さんがどんな気持ちで原爆の残り火を持ち帰ったのか、きっと自分も想像する以上の悲しみや憎しみがあつたと思えます。この平和の火について勉強していくうちに、私はこの平和の火にほこりをもつことができました。もう一度と戦争は起こしてはならないと思えます。だから、将来私が大人になったら、子どもたちに戦争のこと、原子爆弾の悲惨さを教えていきたいと思えます。

人々の手から武器や爆弾をなくし、世界中の誰もが相手を思いやり、平和を願うことよって世界平和が実現できると思います。そのために、まずは私自身が相手を思いやり、友だちや家族、身の周りの人々を大切にしていきたいです。

平成二十九年八月六日

八女市立星野小学校 六年 上野 真愛